# 令和６年度みやぎ食の安全安心消費者モニター<br>アンケート調査結果

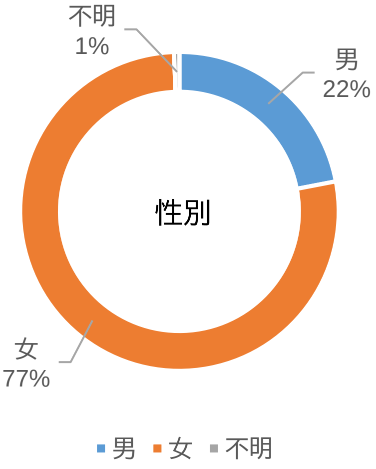
**アンケート対象者**　「みやぎ食の安全安心消費者モニター」1,120 人(令和６年７月 12 日現在)
**アンケート回答者数**　555 人（回答率 49.6%）
**調査実施期間**　令和６年７月中旬～9 月下旬
**アンケート回答者属性**

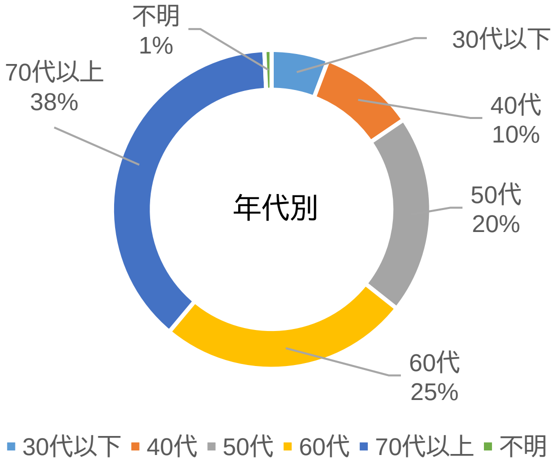
年代別内訳

| | ～20 代 | 30 代 | 40 代 | 50 代 | 60 代 | 70 代 | 80 代 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 度数 | 6 | 26 | 54 | 112 | 141 | 163 | 49 | 4 | 555 |
| 割合 | 1.1% | 4.7% | 9.7% | 20.2% | 25.4% | 29.4% | 8.8% | 0.7% | 100% |

※端数を四捨五入しているため、割合（%）の合計とその内訳が一致しないことがある。
※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合（%）で示した。
※年代別の有意差（統計上、偶然であるとは考えにくい差）については、有意水準5%で有意差検定を行っている。

【回答者属性】




〇回答者の 51.9%が食の安全安心全般について安心またはやや安心と回答した（問 1）。

〇食の安全性について、最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「環境汚染物質」、「食品添加物」、「残留農薬」の順となった（問 4）。

〇食の安全性を確保するための各取組について、回答者の重要度と満足度の乖離が最も大きい取組は、昨年度と同様で「流通・販売段階における安全性の確保」であった（問 5）。

〇食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者の重要度と満足度の乖離が最も大きい取組は、昨年度と同様で「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であった（問 6）。

〇県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分満足」または「おおむね満足」とした回答者は合わせて 62.1%であり、昨年度と比べて 1.4 ポイント減少した（問 8）。

〇農産水産物の購入時における県産品の購入について、「宮城県産品を購入している」（21.9%）または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」（65.8%）とした回答者は合わせて 87.7%となり、約 9 割の人が県産品を購入している結果となった（問 11）。

〇食品中の放射性物質について、「気にしていない」または「あまり気にしていない」とした回答者は合わせて 57.9%であり、昨年度と比べて 12.1 ポイント増加した（問 15）。

〇食品中の放射性物質の不安や風評被害について、「検査状況や結果のわかりやすい公表」を求める回答が最も多かった（72.0%）（問 20）。

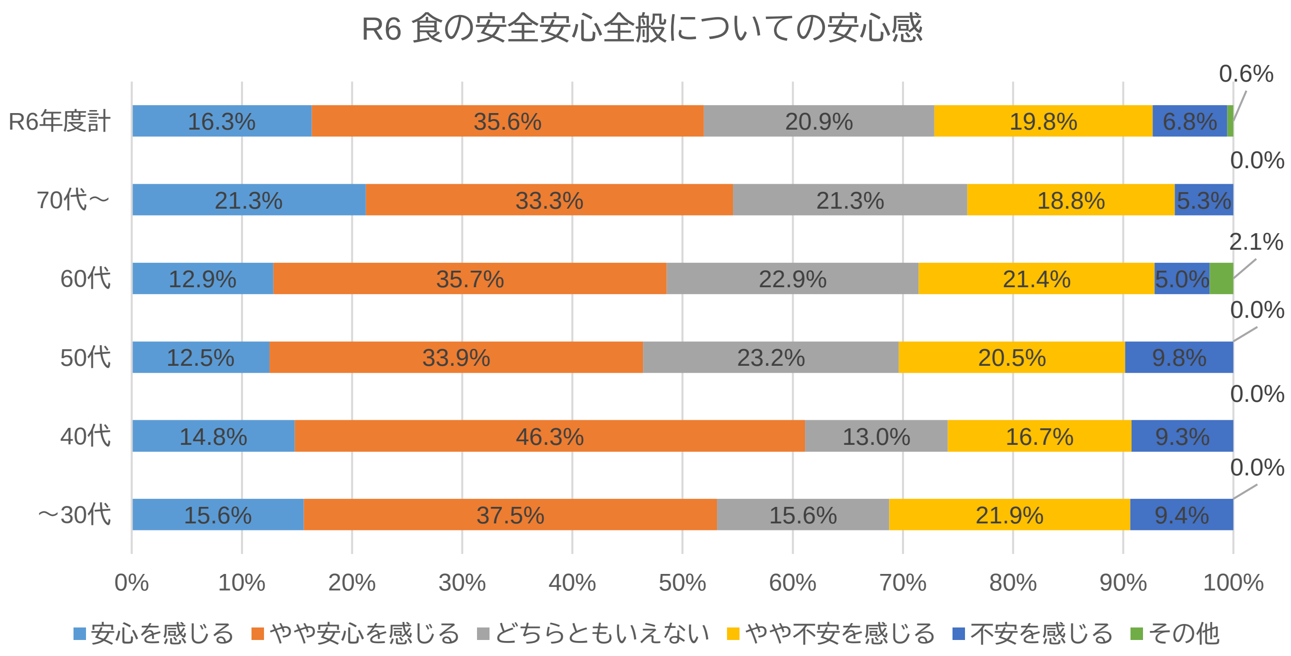
## 問1　食の安全安心全般について、不安を感じていますか。

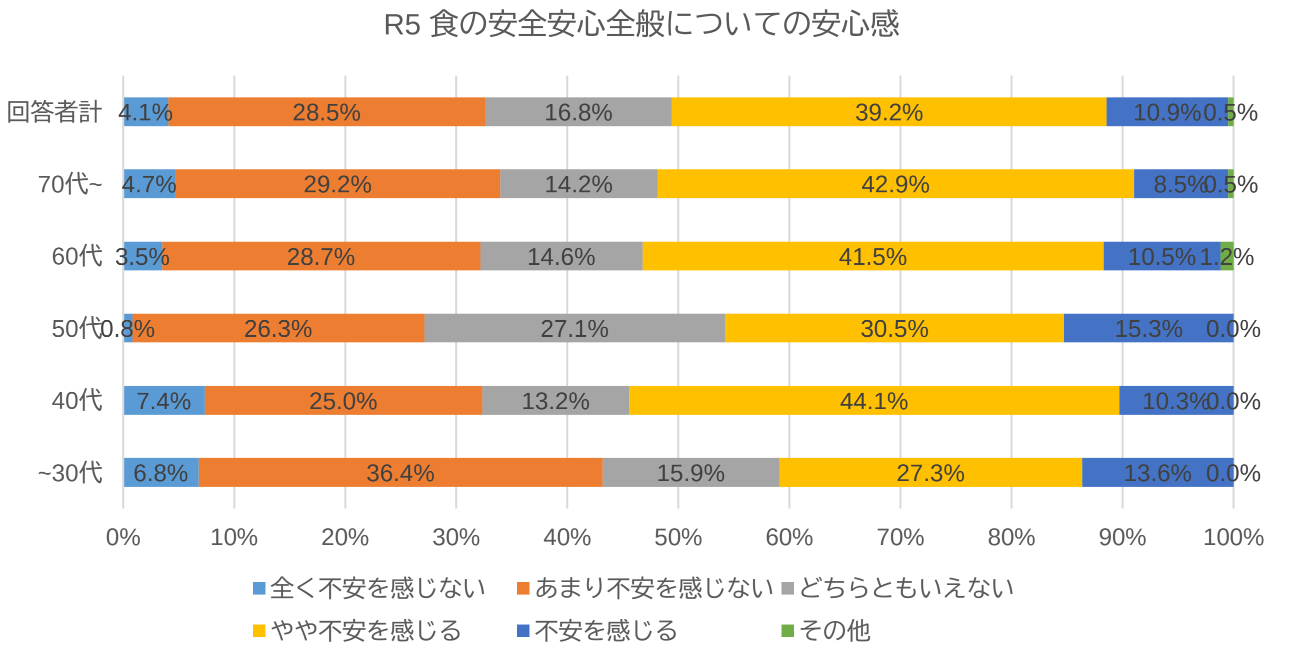
単一回答　回答数：548

選択項目

1：　安心を感じる　　2：　やや安心を感じる　　3：　どちらともいえない
4：　やや不安を感じる　　5：　不安を感じる　　6：　その他

　食の安全安心全般について、「安心を感じる」（16.3%）、「やや安心を感じる」（35.6%）を合わせた51.9%の回答者が安心を感じているが、「不安を感じる」（6.8%）、「やや不安を感じる」（19.8%）を合わせて25.6%の回答者が不安を感じている結果となった。（年代別有意差なし）




【分析】

・R5年度と選択項目の表記を変更したことから、データの連続性は考慮できない。
・50%以上が「安心」よりの回答しており、施策に一定の成果があると考えられる。

| 問2 | 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。<br>単一回答　回答数：552 |
|---|---|

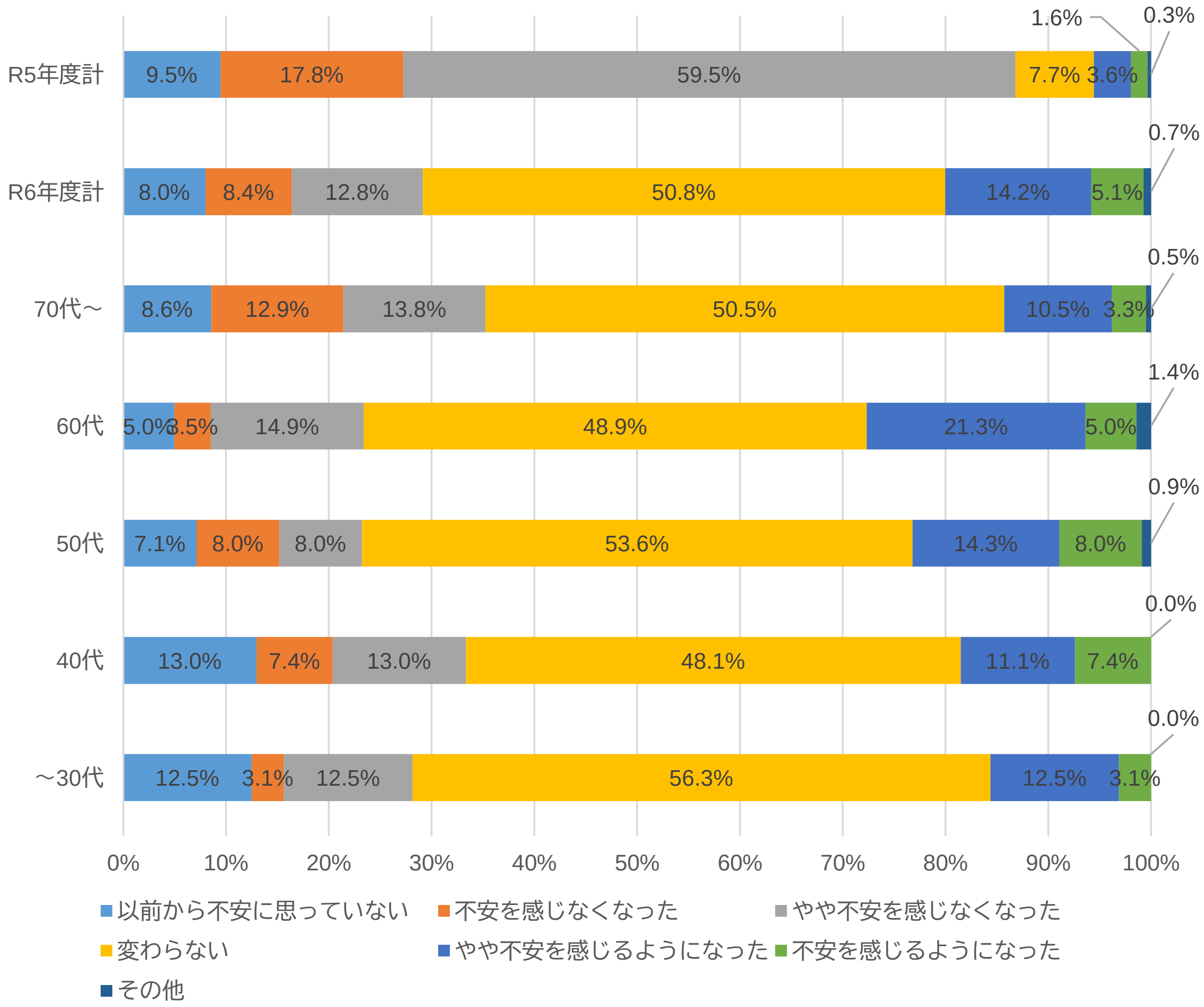
選択項目

1：　以前から不安に思っていない　　2：　不安を感じなくなった

3：　やや不安を感じなくなった　　4：　変わらない

5：　やや不安を感じるようになった　　6：　不安を感じるようになった　　7：　その他

「やや不安を感じなくなった」（12.8%）、「不安を感じなくなった」（8.4%）合わせた数は21.2%となった一方、「不安を感じるようになった」（5.1%）、「やや不安を感じるようになった」（14.2%）を合わせた19.3%が何らかの不安を感じるようになった。（年代別有意差なし）




【分析】

・R5年度と選択項目の表記順を変更したことから、データの連続性は考慮できないことに注意。

・「以前から不安に思っていない」「変わらない」といった意識変化の小ささを指標とすると、全年齢層でほぼ同様の傾向であるが、～30代は意識変化が小さく、60代は意識変化が大きい。また、50代～60代は「以前から不安に思っていない」「不安を感じなくなった」「やや不安を感じなくなった」の割合が最も小さく、情勢変化等に機敏に反応していると考えられる。

| 問3 | 問2で、意識の変化があったと回答した方にお聞きします。意識が変化した理由は何ですか。自由にお書きください。<br>自由回答　回答数：160 |
|---|---|

計160件の記述回答があり、問2で選んだ選択肢毎に、理由の概要、主な内容を下表にまとめた。
問2で「2 不安を感じなくなった」「3 やや不安を感じなくなった」と回答した方の主な理由は、「安全性に関する知識の向上」、「事業者等の取組への理解」、「情報発信の改善」であった。
問2で「5 やや不安を感じるようになった」、「6 不安を感じるようになった」と回答した方の主な理由は、「紅麹等のサプリメント」、「気候変動・物価高騰」、「不正などによる事件の発生」、「食中毒」であった。

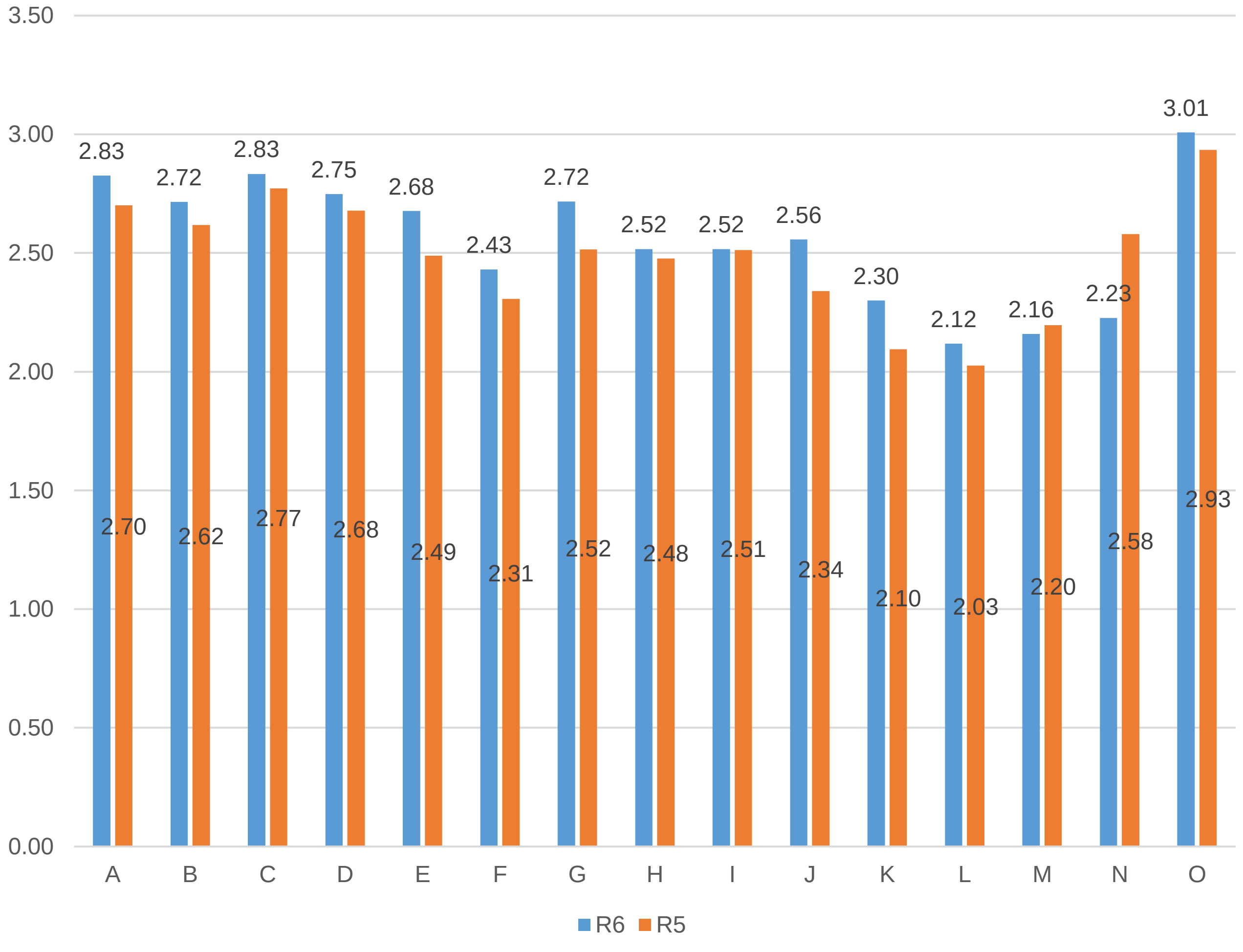
| | 理由の概要 | 主な内容 |
|---|---|---|
| 2又は3 | ・安全性に関する知識向上<br>・県や事業者の取組への理解<br>・情報の公表、発信強化<br>・適正な食品表示<br>・規制の強化<br>・事件などの報道が減少 | ・安心安全に注意してやっているのがよくわかるから。<br>・生産から製造加工・流通・消費の流れの中で安全な措置がされるようになった。検査とかの結果公表等が明らかになったような気がします。<br>・表示がある<br>・様々な啓発活動や調査等を実施しているため。<br>・多くの情報が入り、自分なりに確認しながら食品を選択する事ができた。<br>・昨年、気になっていた残留放射線の講習を受けて納得した。 |
| 5又は6 | ・紅麹関係<br>・気候変動<br>・物価高騰<br>・食中毒事件の発生<br>・供給者の意識低下<br>・不正などによる食品事故<br>・水質汚染<br>・添加物<br>・分かりづらい食品表示<br>・真偽不明の情報が拡散<br>・輸入品の増加<br>・供給者の意識低下 | ・サプリで大きなニュースがあり口に入れるものについて不安を感じるようになった。<br>・高齢化と温暖化でこれからの農業が心配<br>・気候変動に伴って農作物・水産物の収獲量、水揚げ量が局地的にではあるが激減しているという報道をよく目にするようになった事<br>・食中毒の報道があるたびなにが安全安心として食していいものか考えさせられます。<br>・正しい表示を業者が必ずしも行っていないケースが多々あるから。<br>・工甘味料に発がん性物質になるものが有るのではという記事があり実際調べてみると安心できないものがあったので |

| 問4 | 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。<br>4段階評価　回答数：501 |
|---|---|

選択項目

A：　食品添加物について　　B：　残留抗生物質について　　C：　環境汚染物質について
D：　残留農薬について　　E：　異物混入について　　F：　アレルギー物質について
G：　食中毒について　　H：　家畜伝染病について　　I：　遺伝子組換え食品について
J：　産地表示の信頼性　　K：　期限表示の信頼性　　L：　栄養成分表示の信頼性
M：　放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性　　N：　健康食品の安全性
O：　輸入食品の安全性

不安を感じている項目としては、「O：輸入食品の安全性」（3.01点）が最も高く、次いで「C：環境汚染物質」（2.83点）、「A：食品添加物」（2.83点）、「D：残留農薬」（2.75点）の順である。昨年度のアンケート調査結果と比べ、全体的に同様の傾向がみられたが、多くの項目で平均ポイントが上昇し、特に食中毒については上昇幅が大きかった。




※平均ポイントは、「強く感じている」を4点、「やや感じている」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

【分析】
・「産地表示」以外の項目で不安感が増しており、特に「放射性物質」「食中毒」の項目で前年度より上昇している。

| 問5 | 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。<br>4段階評価　回答数：540 |
|---|---|

質問項目

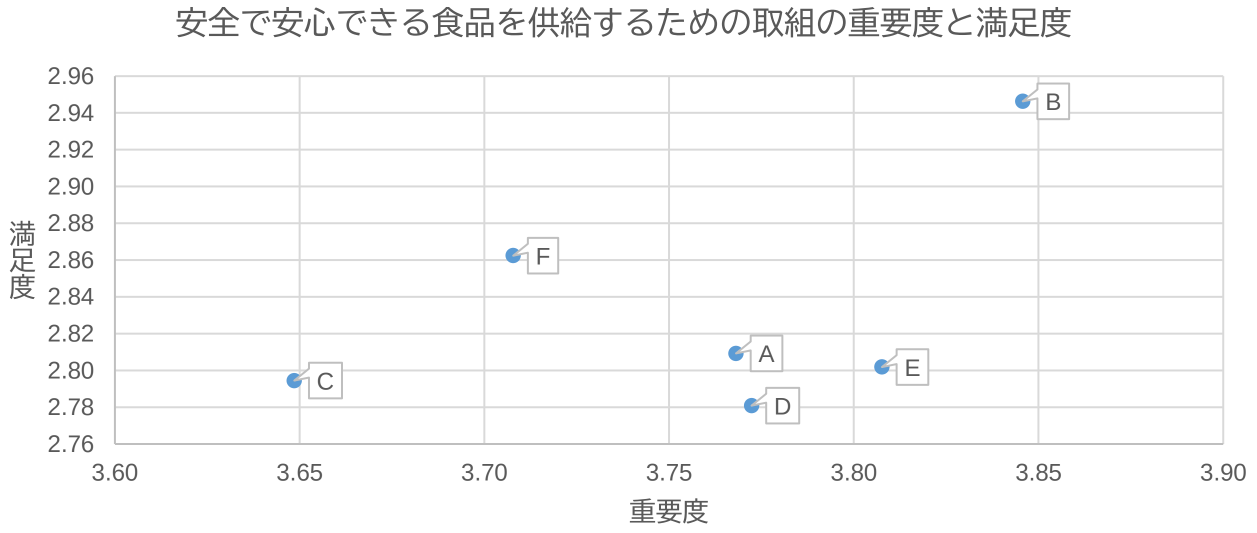
A：　生産者の取組への支援
B：　安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C：　事業者に対する支援
D：　生産段階における安全性の確保
E：　流通・販売段階における安全性の確保
F：　食品表示の適正化の推進

選択項目

重要度　1：重要だと思う　2：やや重要だと思う　3：あまり重要だと思わない　4：重要だと思わない
満足度　1：十分行われている　2：行われている　3：やや不十分である　4：不十分である

食の安全性を確保するための各取組について、重要度と満足度の差が最も大きい項目は「流通・販売段階における安全性の確保」であった。次いで「生産者の取組への支援」、「農水産物生産環境づくり支援」の順であった。昨年度のアンケート調査結果では、「流通・販売段階における安全性の確保」、「生産者の取組への支援」、「生産段階における安全性の確保」の順となっていた。

| | 重要度 | 満足度 | 差ポイント | | 増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | R6 | R5 | |
| A：生産者の取組への支援 | 3.77 | 2.81 | 0.96 | 0.94 | 0.02 |
| B：農水産物生産環境づくり支援 | 3.85 | 2.95 | 0.90 | 0.93 | ▲ 0.03 |
| C：事業者に対する支援 | 3.65 | 2.79 | 0.85 | 0.86 | ▲ 0.01 |
| D：生産段階における安全性の確保 | 3.77 | 2.78 | 0.99 | 0.91 | 0.08 |
| E：流通・販売段階における安全性の確保 | 3.80 | 2.80 | 1.00 | 1.02 | ▲ 0.02 |
| F：食品表示の適正化の推進 | 3.71 | 2.86 | 0.84 | 0.70 | 0.14 |




※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。
※重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。
※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

【分析】
・「流通・販売段階における安全性の確保」については、若干の改善はみられているが依然として差が大きい。また食品表示の適正化の推進については大きく差が開いており、改善が必要である。

| 問6 | 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。<br>4段階評価　回答数：544 |
|---|---|

質問項目

A：　情報の収集、分析及び公開　　B：　生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進

C：　県民総参加運動の展開　　D：　県民の意見の施策への反映

選択項目

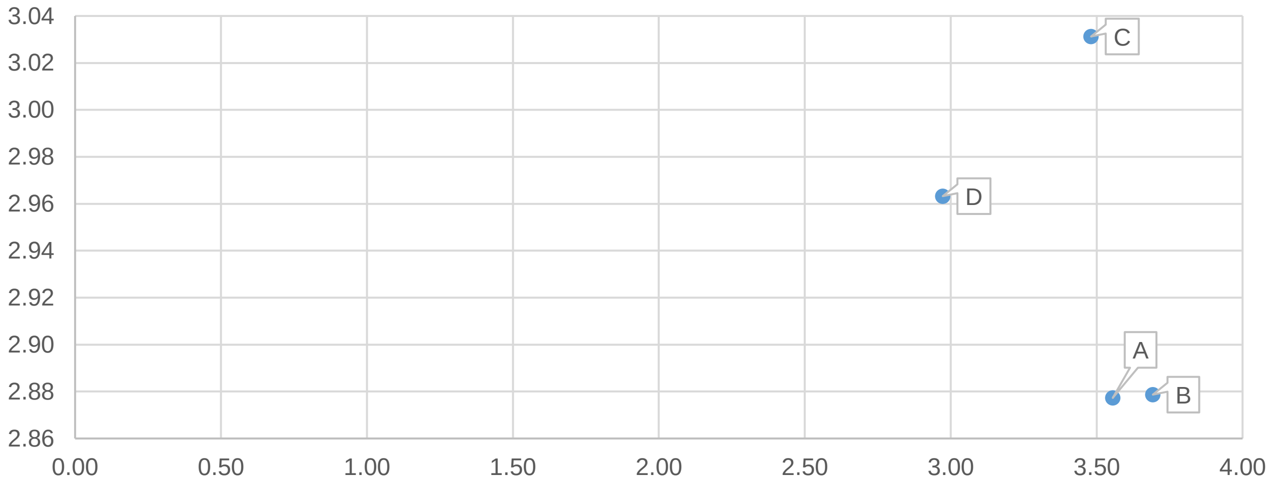
重要度　1：重要だと思う　2：やや重要だと思う　3：あまり重要だと思わない　4：重要だと思わない

満足度　1：十分行われている　2：行われている　3：やや不十分である　4：不十分である

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、重要度と満足度の差が最も大きい項目は「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であった。次いで「情報の収集・分析及び公開」、「県民の意見の施策への反映」の順であり、昨年と同様の傾向であった。
また、昨年度と比較して、満足度が全ての項目において増加し、重要度と満足度の差は全ての項目において減少した。

| | 重要度 | 満足度 | 差ポイント | | 増減 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | R6 | R5 | |
| A：情報の収集、分析及び公開 | 3.56 | 2.88 | 0.68 | 0.64 | 0.04 |
| B：生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進 | 3.69 | 2.88 | 0.81 | 0.79 | 0.02 |
| C：県民総参加運動の展開 | 3.48 | 3.03 | 0.45 | 0.47 | ▲ 0.02 |
| D：県民の意見の施策への反映 | 2.97 | 2.96 | 0.01 | 0.63 | ▲ 0.62 |

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための取組の重要度と満足度




※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を 4 点、「やや重要だと思う」「行われている」を 3 点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を 2 点、「重要だと思わない」「不十分である」を 1 点として平均化した。
※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

【分析】
・「県民総参加運動の展開」については若干の改善が、「県民の意見の施策への反映」については大きく改善がみられる。
・安心の項目においては「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」の乖離が最も大きく、改善が必要である。

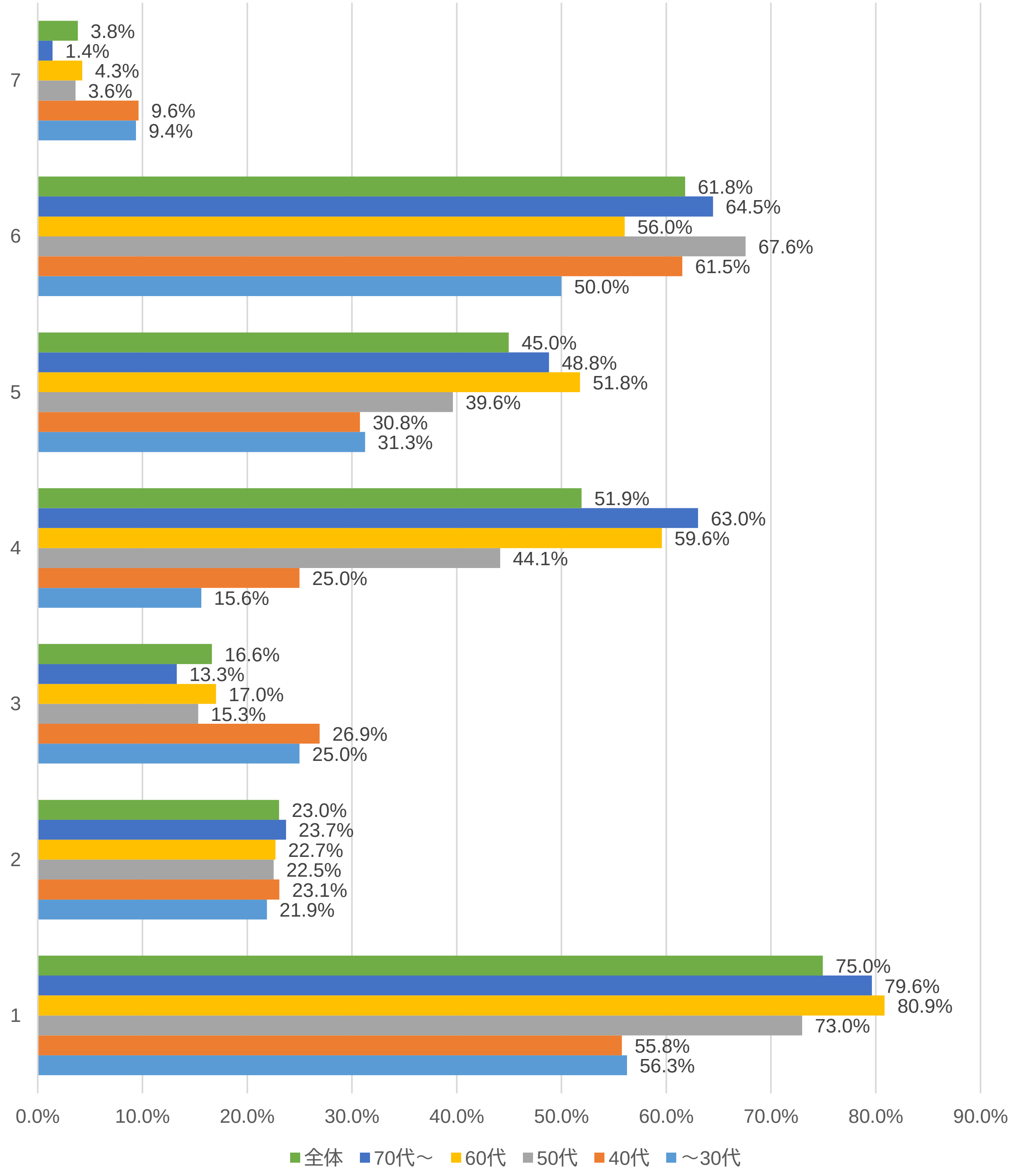
| 問7 | どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。<br>複数回答　回答数：1,539 |
|---|---|

選択項目

1：県政だより　2：県のホームページ　3：インターネット（県ホームページ以外）　4：新聞

5：テレビ・ラジオ　6：モニターだより　7：確認していない　8：　その他

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」（75.0%）が最も多く、次いで「モニターだより」（61.8%）、「新聞」（51.9%）の順となり、昨年と同様の傾向であった。
年代別では、「インターネット（県ホームページ以外）」及び「確認していない」の項目において、30代以下・40代の回答割合が高い。「新聞」の項目は、年代が上がるにつれ、回答割合が高い。

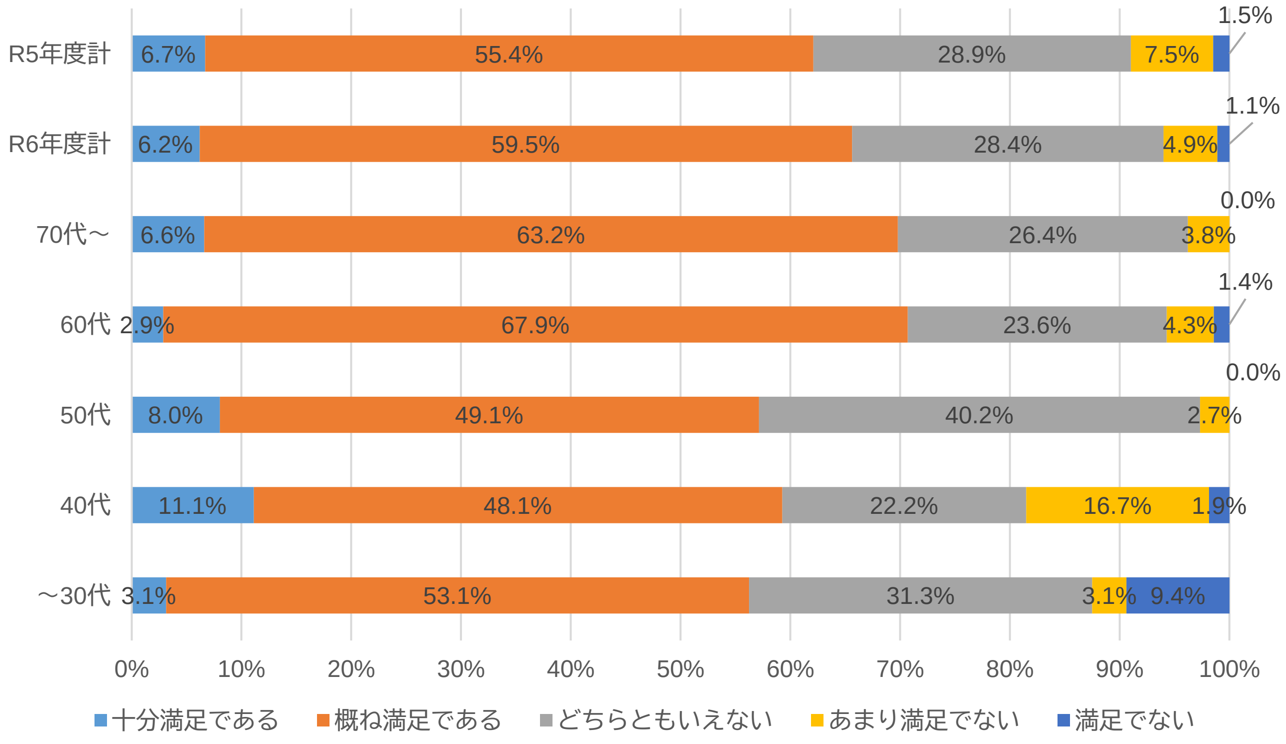


## 問8　県からの食の安全安心に関する情報提供について、満足だと感じていますか。

単一回答　回答数：554

選択項目
1：　十分満足である　　2：　おおむね満足である　　4：　どちらともいえない
4：　あまり満足でない　　5：　満足でない

県からの情報提供については、「十分満足である」（6.2%）と「おおむね満足である」（59.5%）を合わせて65.7%であり、昨年度に比べ3.6ポイント増加した。また、「あまり満足でない」（4.9%）と「満足でない」（1.1%）を合わせて6.0%となり、昨年度に比べ3.0ポイント減少した。




【分析】
・30代以下の「満足ではない」における回答で有意差があり、特に重点的な対応が必要である。
・40代についても「あまり満足でない」で有意差が出ている。

## 問9　問8で　「4：あまり満足でない」　「5：満足でない」を選んだ方にお聞きします。満足できない理由は何ですか。

自由回答　回答数：25

計25件の記述回答があり、問8で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。問8で「4 あまり満足でない」、「5 満足でない」と回答した者の主な理由は、「意識しないと情報が得られない」、「県民全体に情報が伝わっていない」、「情報量が少ない」であった。

| | 理由 | 要望 |
|---|---|---|
| 4 | ・情報が遅い<br>・情報不足 | ・能動的にアクセスしなくても情報を得られるようにしてほしい |
| 5 | ・目にしたことがなく発信力が弱い | ・子供、年配者にわかりやすい内容にしてほしい<br>・県政だよりに掲載してほしい |

| 問10 | 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。<br>優先度の高い順に3つ　回答数：555 |
|---|---|

選択項目

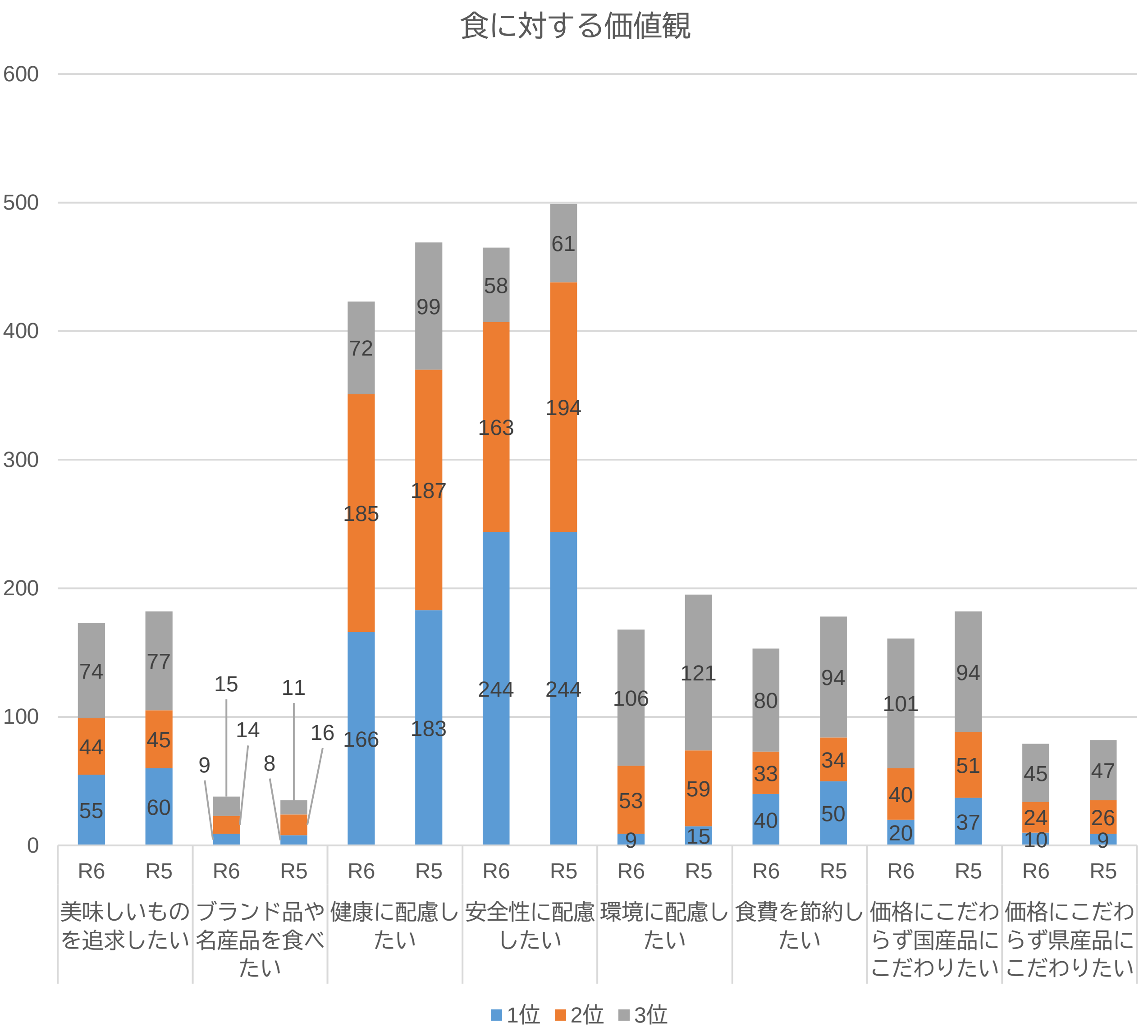
1：美味しいものを追求したい　2：ブランド品や名産品を食べたい　3：健康に配慮したい

4：安全性に配慮したい　5：環境に配慮したい　6：食費を節約したい

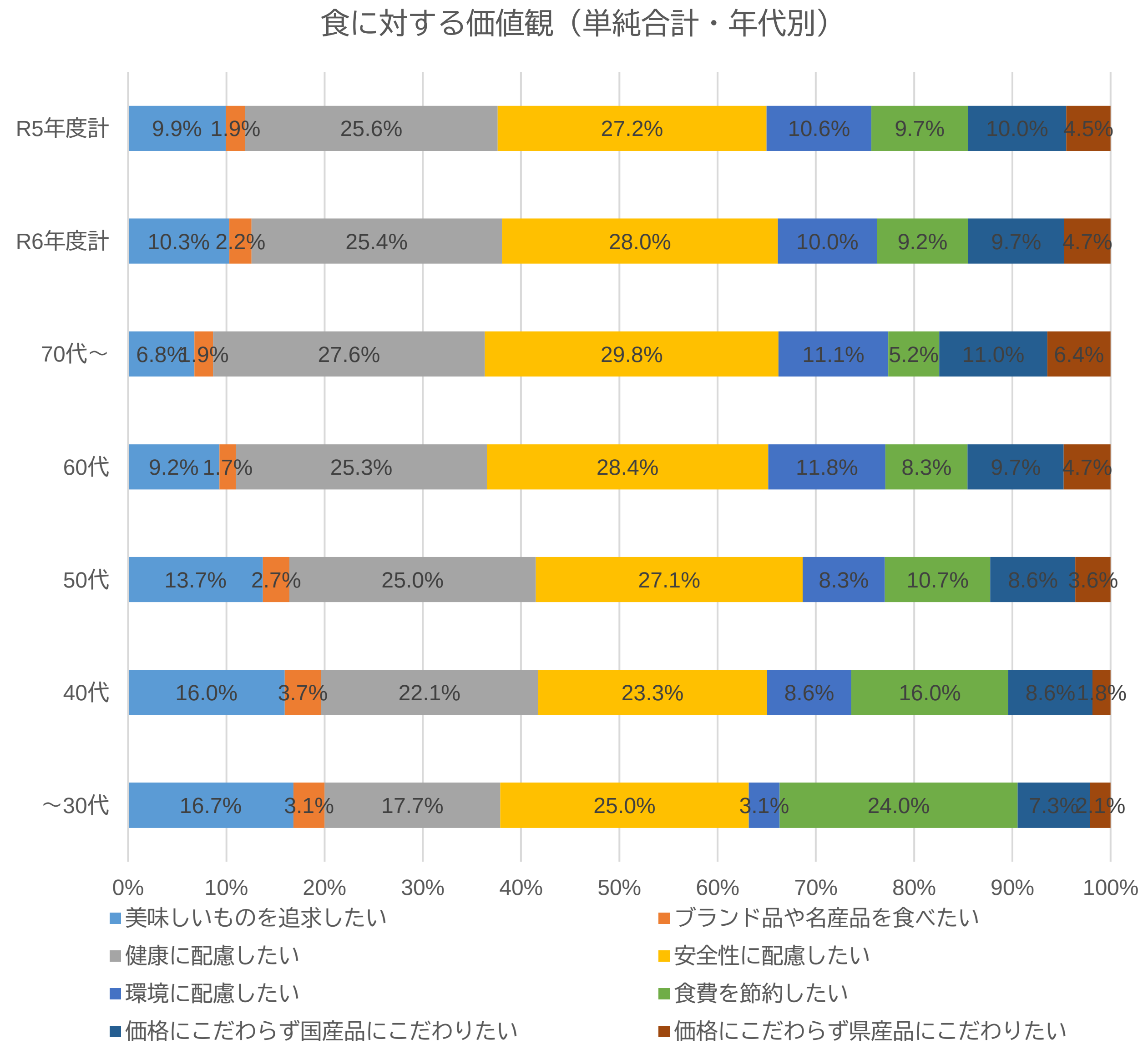
7：価格にこだわらず、国産品にこだわりたい　8：価格にこだわらず、県産品にこだわりたい

9：　その他

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」（465人）、「健康に配慮したい」（423人）と回答する人が非常に多く、次いで「美味しいものを追求したい」（173人）、「環境に配慮したい」（168人）、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」（161人）の順であった。
昨年度の結果と概ね同様の傾向となった。



年代別では、「美味しいものを追求したい」の項目において、30 代以下、40 代の回答割合が高く、70 代以上の回答割合が低い。「食費を節約したい」の項目は、30 代以下・40 代の回答割合が高く、70 代以上の回答割合が低い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目は、70 代以上の回答割合が高い。



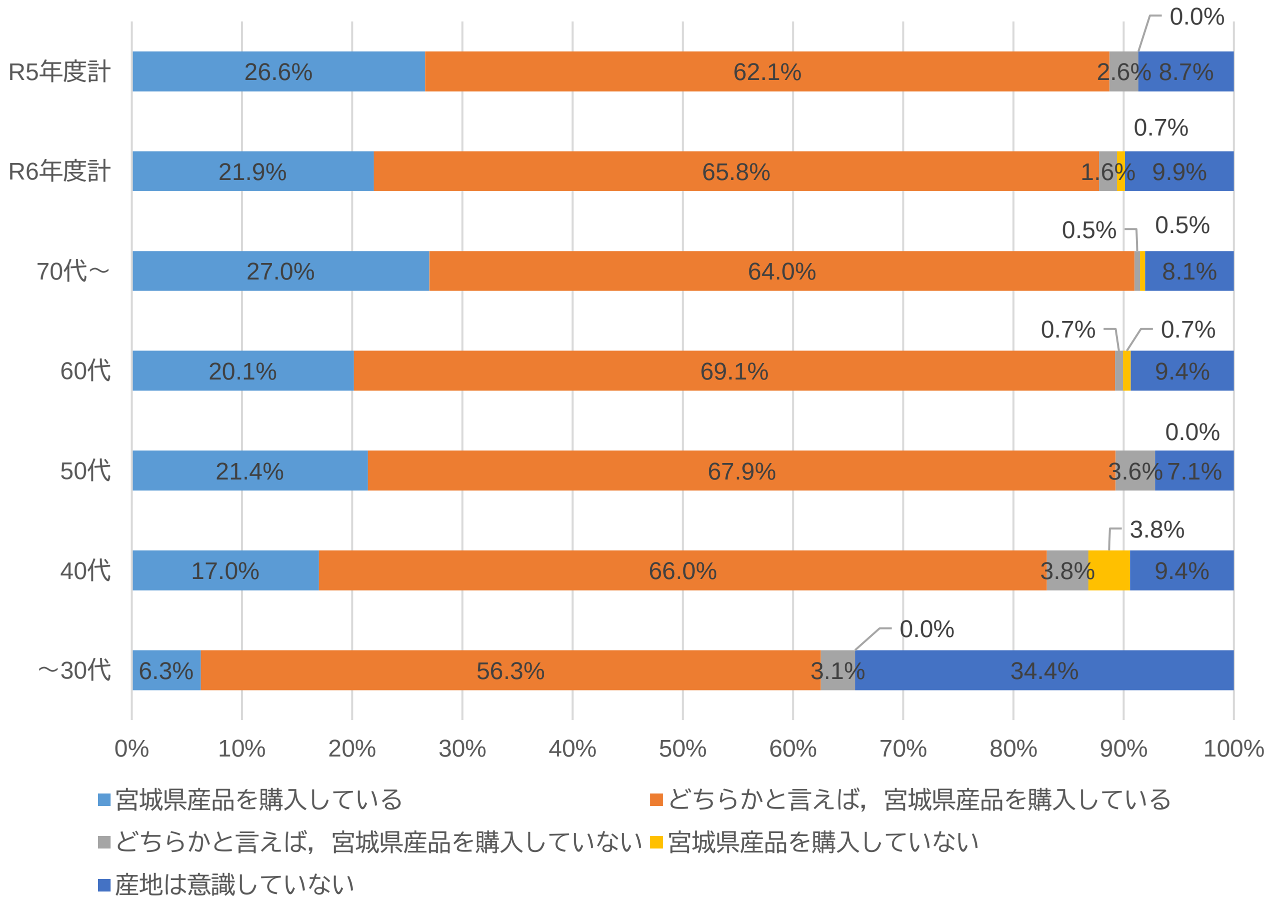

【分析】
・R5年度とほぼ同様の傾向であり、食に対して、年齢層が低いほどコストに対する味や付加価値の大きさを、年齢層が上がるに従い味や付加価値よりも健康意識が強まる傾向が伺える

| 問11 | 農畜水産物（米、野菜、肉、魚介類など）を購入する時、宮城県産品を購入していますか。<br>単一回答　回答数：551 |
|---|---|

選択項目
1：　宮城県産品を購入している　　2：　どちらかと言えば、宮城県産品を購入している
3：　どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない　　4：　宮城県産品を購入していない
5：　産地は意識していない

農産物等の購入時における県産品の購入については、「宮城県産品を購入している」（22.1%）と「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」（65.6%）を合わせて87.7%となり、約9割の人が県産品を購入している結果となった。また、「どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」は1.6%となり、昨年度から1.0%減少した。

年代別では、「どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」の項目において、40代の回答割合が高い。また、「産地は意識していない」の項目は、30代以下の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。




【分析】
・30代以下の「産地は意識していない」で有意差があり、特に重点的な対応が必要である。
・40代についても「宮城県産を購入していない」で有意差が出ている。
・70代以上の「宮城県産を購入している」でも有意差が出ている。
・R5年度と比較して、積極的な宮城県産購入層が減少している中、特に30代以下の産地を気にしない層に対する訴求が重要である。

| 問12 | 問11で「1：宮城県産品を購入している」「2：どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入している理由は何ですか。<br>3つまで回答　回答数：1,252 |
|---|---|

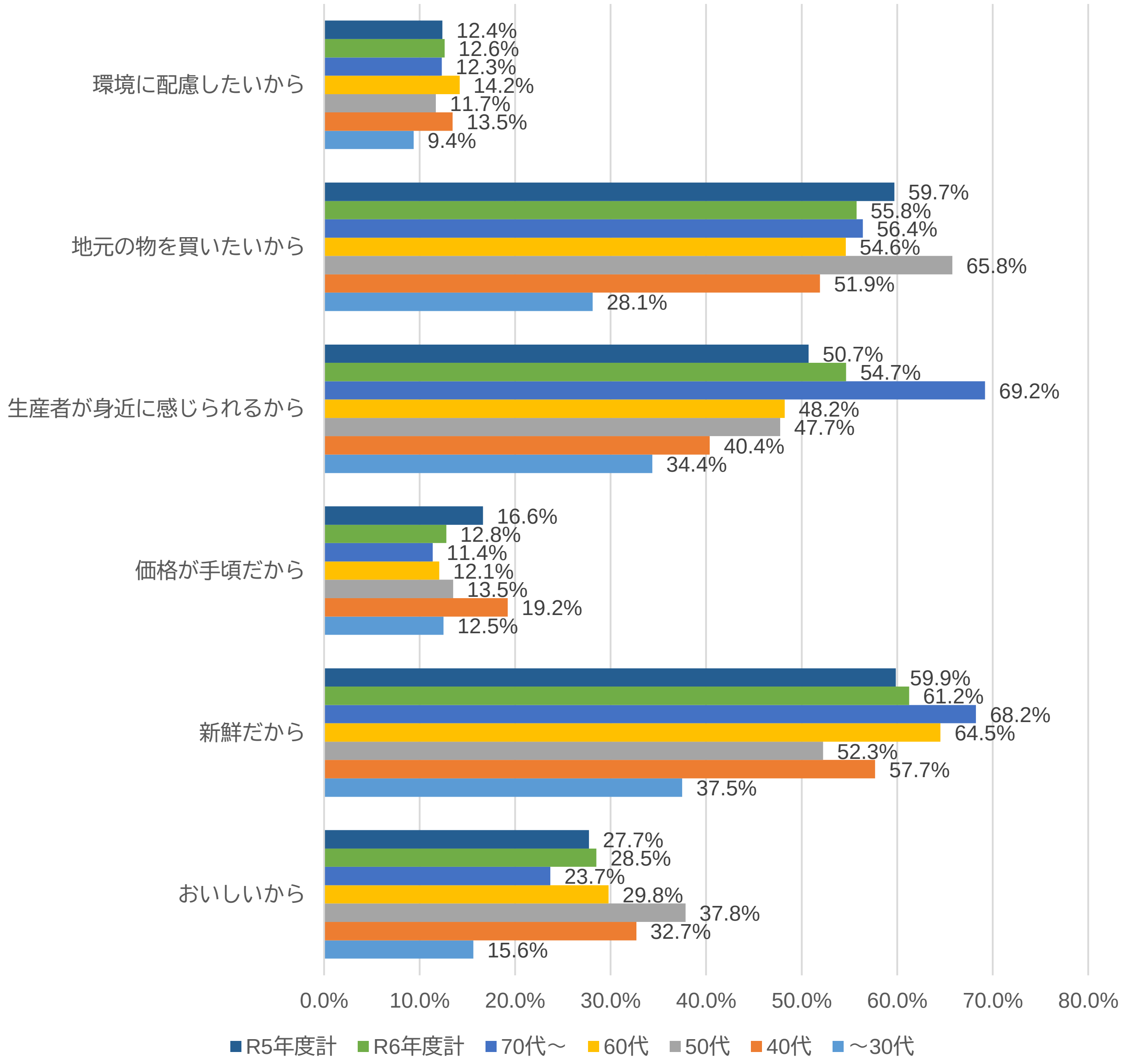
選択項目

1：おいしいから　2：新鮮だから　3：価格が手頃だから　4：生産者が身近に感じられるから

5：地元の物を買いたいから　6：環境に配慮したいから　7：その他

問11で「宮城県産品を購入している」または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」の回答者のうち、その理由としては、「新鮮だから」（61.2%）が最も多く、次いで「地元の物を買いたいから」（55.8%）、「生産者が身近に感じられるから」（54.7%）の順である。

年代別では、「新鮮だから」の項目において、70代以上の回答割合が高い。「価格が手頃だから」の項目は、70代以上の回答割合が低い。「生産者が身近に感じられるから」の項目は、30代以下が低く、70代以上の回答割合が高い。



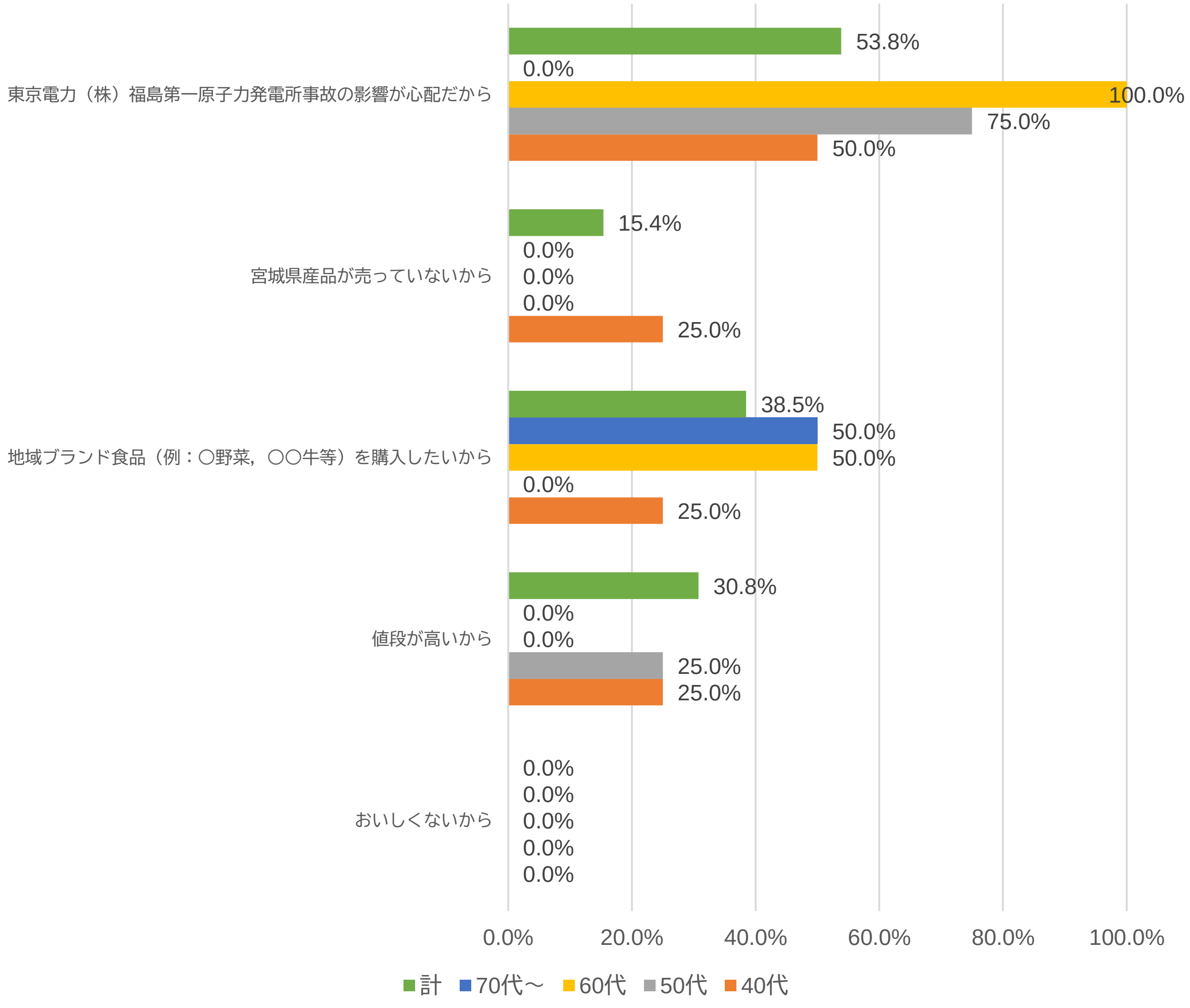

【分析】

・全体的にR5年度と同様であるが、味や見た目について重要視する傾向が伺える

| 問13 | 問11で「1：どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」「4：宮城県産品を購入していない」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入していない理由は何ですか。<br>3つまで回答　回答数：20 |
|---|---|

選択項目
1：おいしくないから　2：値段が高いから
3：地域ブランド食品（例：〇野菜、〇牛等）を購入したいから　4：宮城県産品が売っていないから
5：東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が心配だから　6：その他

問11で「どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」または「宮城県産品を購入していない」の回答者のうち、その理由としては、「東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が心配だから」（50.0%）が最も多く、次いで、「地域ブランド食品を購入したいから」（35.7%）が多かった。回答数が少ないため、年代間有意差検定はできなかった。




※集計エラーにより～30 代を除外

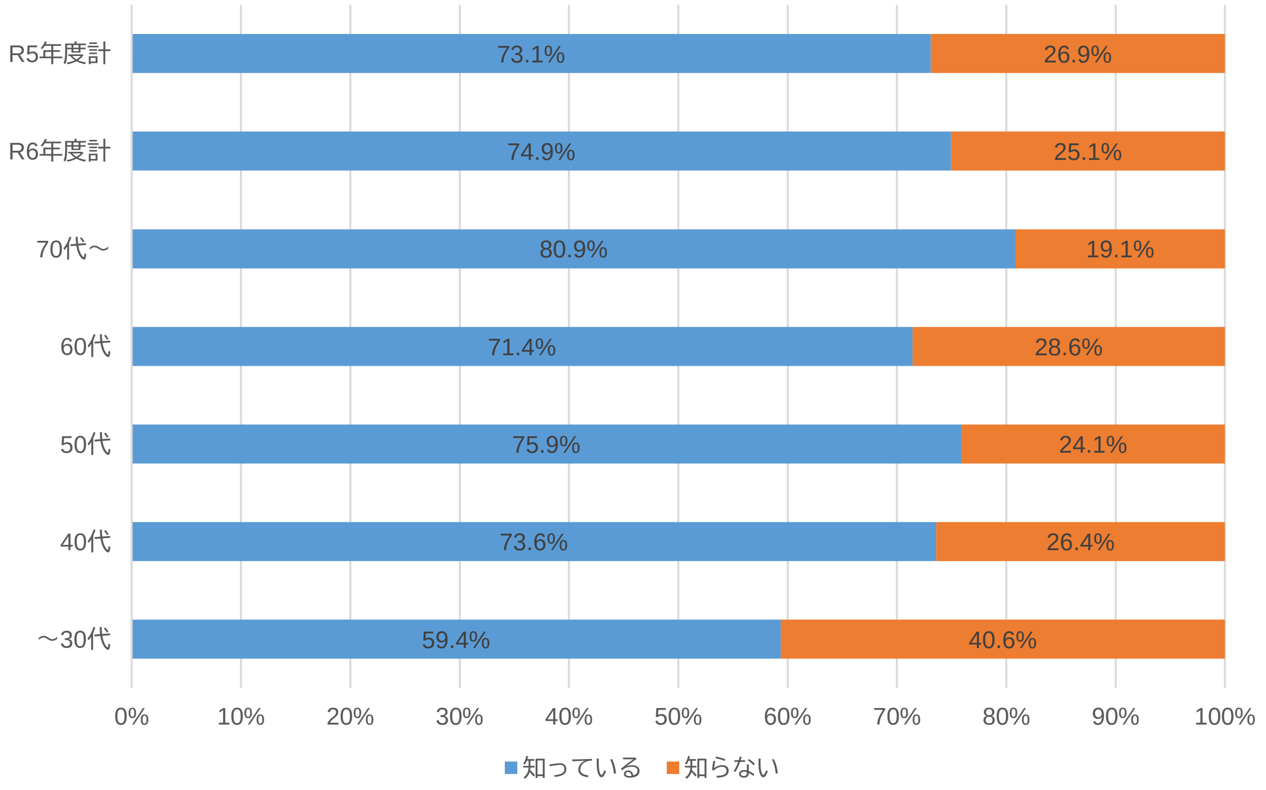
| 問14 | 有機JASの表示について、知っていますか。<br>単一回答　回答数：549 |
|---|---|

選択項目

1：知っている　　2：知らない

有機JASについては、「知っている」（74.9%）、「知らない」（25.1%）となり、7割以上が知っているという結果となった。また前年度と比較して「知っている」の回答が1.8ポイント増加した。

年代別では、30代以下の「知っている」の割合が低かった。




【分析】

・～30代における認知度が低いことから、閲覧者の多い県政だより、モニターだよりなどの広報媒体での情報発信が必要である。

## 問15　食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。

単一回答　回答数：553

選択項目

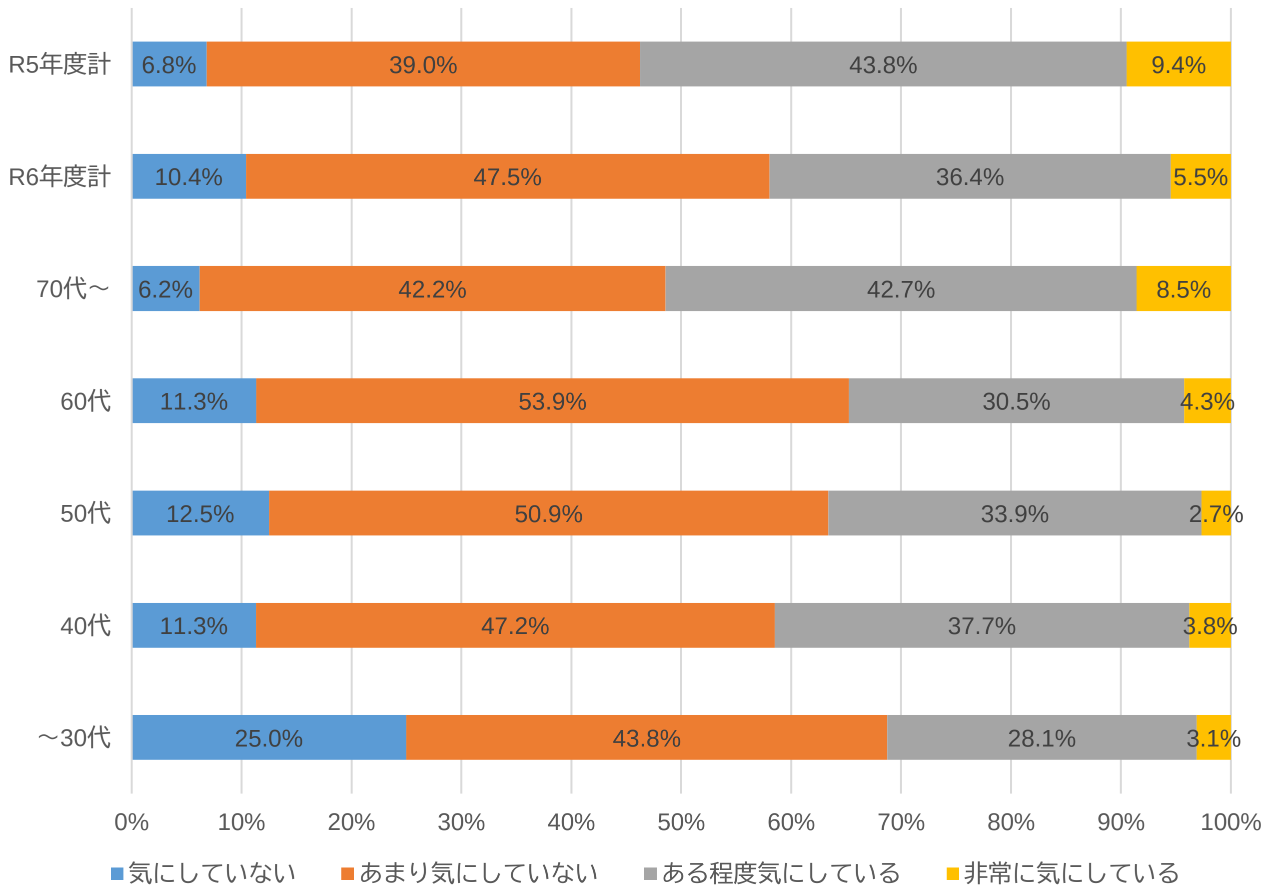
1：　気にしていない　　2：　あまり気にしていない　　3：　ある程度気にしている

4：　非常に気にしている　　　　5：　その他

放射性物質については、「気にしていない」（10.4%）、「あまり気にしていない」（47.5%）を合わせた回答者は57.9%で、昨年度に比べ12.1ポイント増加した。一方、「非常に気にしている」（5.5%）、「ある程度気にしている」（36.4%）を合わせた41.9%の回答者が気にしているが、昨年度に比べ11.3ポイント減少した。

年代別では、「非常に気にしている」及び「ある程度気にしている」の回答を合計した場合、30代以下の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。

なお、「その他」の回答としては、「何を見ればよいのか分からない」、「あきらめている」といった意見があった。




【分析】

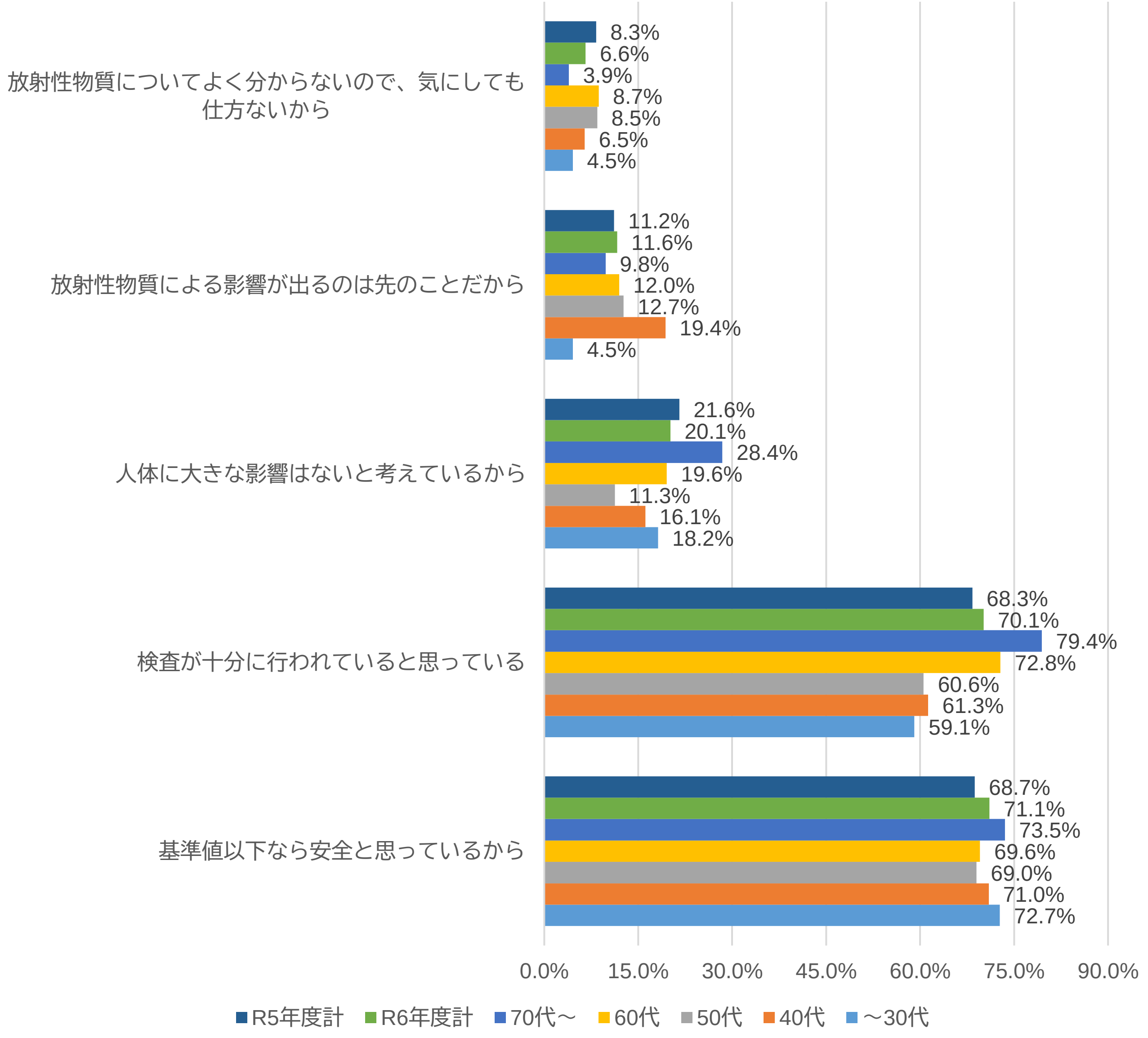
・30代以下の「気にしていない」で有意差があること、70代以上の「非常に気にしている」でも有意差が出ていることから、両極端な結果となっている。

・R5年度と比較して、放射性物質に対して気にする割合が大きく減少しているが、70代においては半数以上が気にしており、注意が必要である。

| 問16 | 問15で「1：気にしていない」「2：あまり気にしていない」を選んだ方にお聞きします。気にしている理由は何ですか。<br>複数回答　回答数：582 |
|---|---|

選択項目
1：　基準値以下なら安全だと思っているから　　2：　検査が十分に行われていると思っているから
3：　人体に大きな影響はないと思っているから　4：　放射性物質による影響が出るのは先のことだから
5：　放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから　　6：　その他

問15で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「基準値以下なら安全だと思っているから」（71.1%）が最も多く、次いで「検査が十分に行われていると思っているから」（70.1%）、「人体に大きな影響はないと思っているから」（20.1%）の順である。

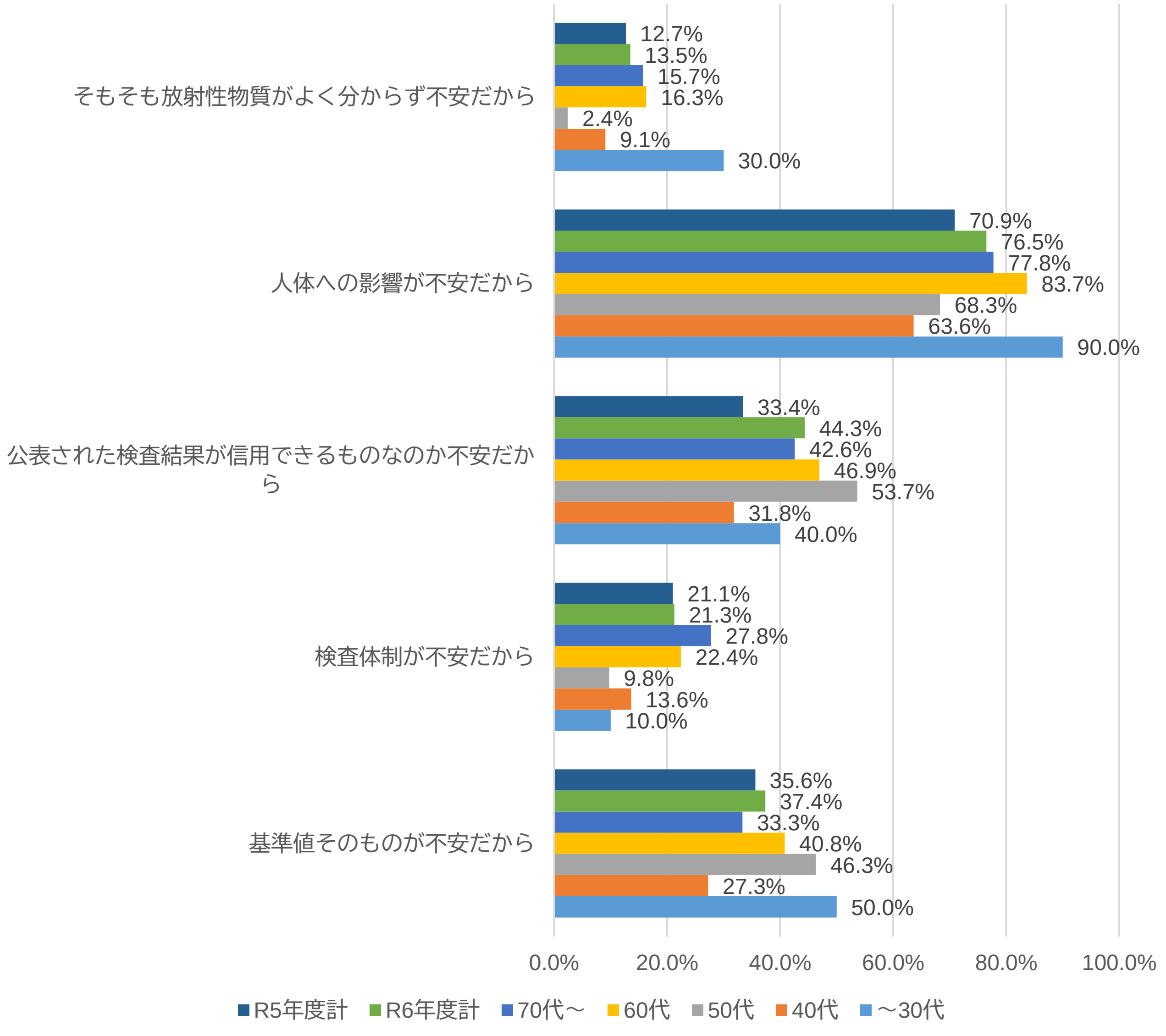



【分析】
・問15の選択項目表示順を変更したことから、データの連続性を考慮することに注意。
・R5年度と比較して、大きく順位が変わっており、「放射性物質の影響がでるのは先のことである」「人体への大きな影響はないと考えているから」という回答から、知識の普及向上が図られていると考えられる。

| 問17 | 問15で「3：ある程度に気にしている」「4：非常に気にしている」を選んだ方にお聞きします。気にしている理由は何ですか。<br>複数回答　回答数：453 |
|---|---|

選択項目
1：　基準値そのものが不安だから　　2：　検査体制が不安だから
3：　公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから　　4：　人体への影響が不安だから
5：　そもそも放射性物質がよく分からず不安だから　　6：　その他

問15で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」（76.5%）が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」（44.3%）、「基準値そのものが不安だから」（37.4%）の順である。（年代別有意差なし）



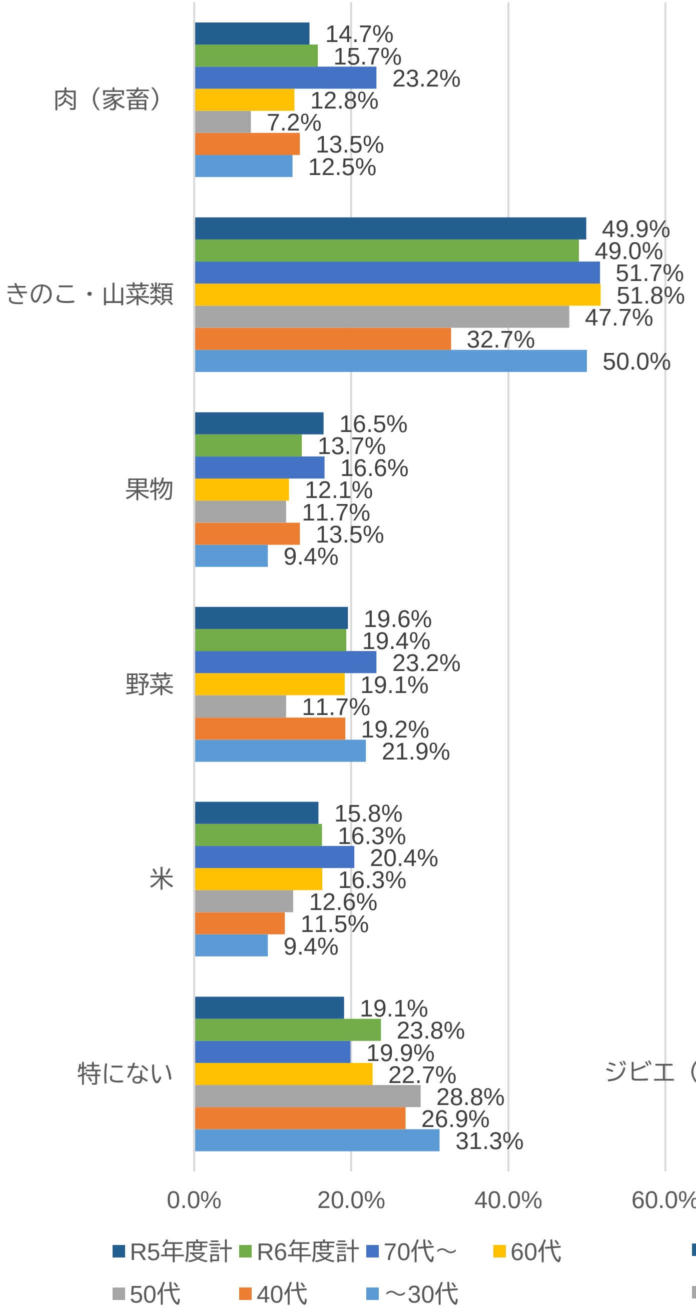

【分析】
・問15の選択項目表示順を変更したことから、データの連続性を考慮することに注意。
・継続して人体への影響に対して不安を持っているが、公表値に対する不信感も高まっている。

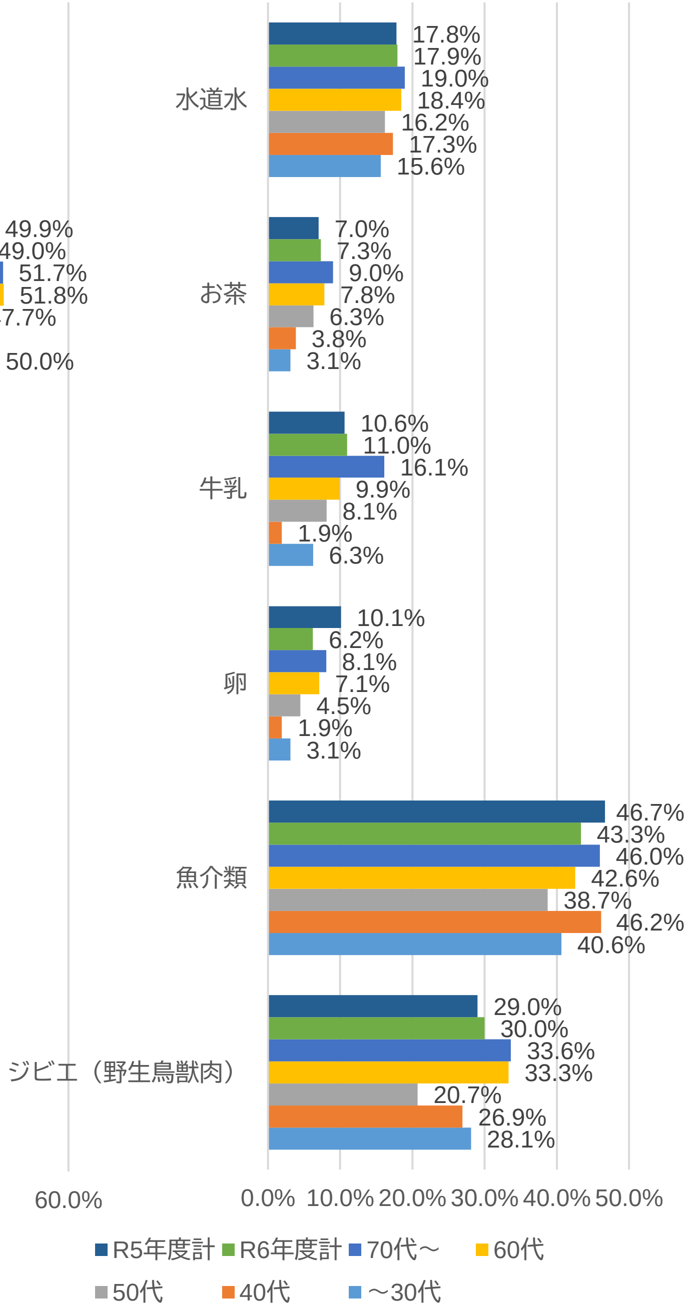
| 問18 | 食品中の放射性物質について、現在どのような食品が不安ですか。<br>複数回答　回答数：1,135 |
|---|---|

選択項目

1：不安な食品は特にない　2：米　3：野菜　4：果物　5：きのこ・山菜類　6：肉（家畜）
7：ジビエ（野生鳥獣肉）　8：魚介類　9：卵　10：牛乳　11：お茶　12：水道水
13：その他

不安を抱いているものは、「きのこ・山菜類」（49.0%）が最も多く、次いで「魚介類」（43.3%）、「ジビエ（野生鳥獣肉）」（30.0%）の順である。年代別では、「不安な食品は特にない」の項目において、30代以下の回答割合が高い。




【分析】
・R5年度と比較して「特にない」と回答する割合が増えており、「魚介類」と回答する割合が特に減少している。

| 問19 | 問18で不安と回答した理由は何ですか。<br>自由回答　回答数：315 |
|---|---|

315件の回答があった。主な記載内容は以下の通りである。

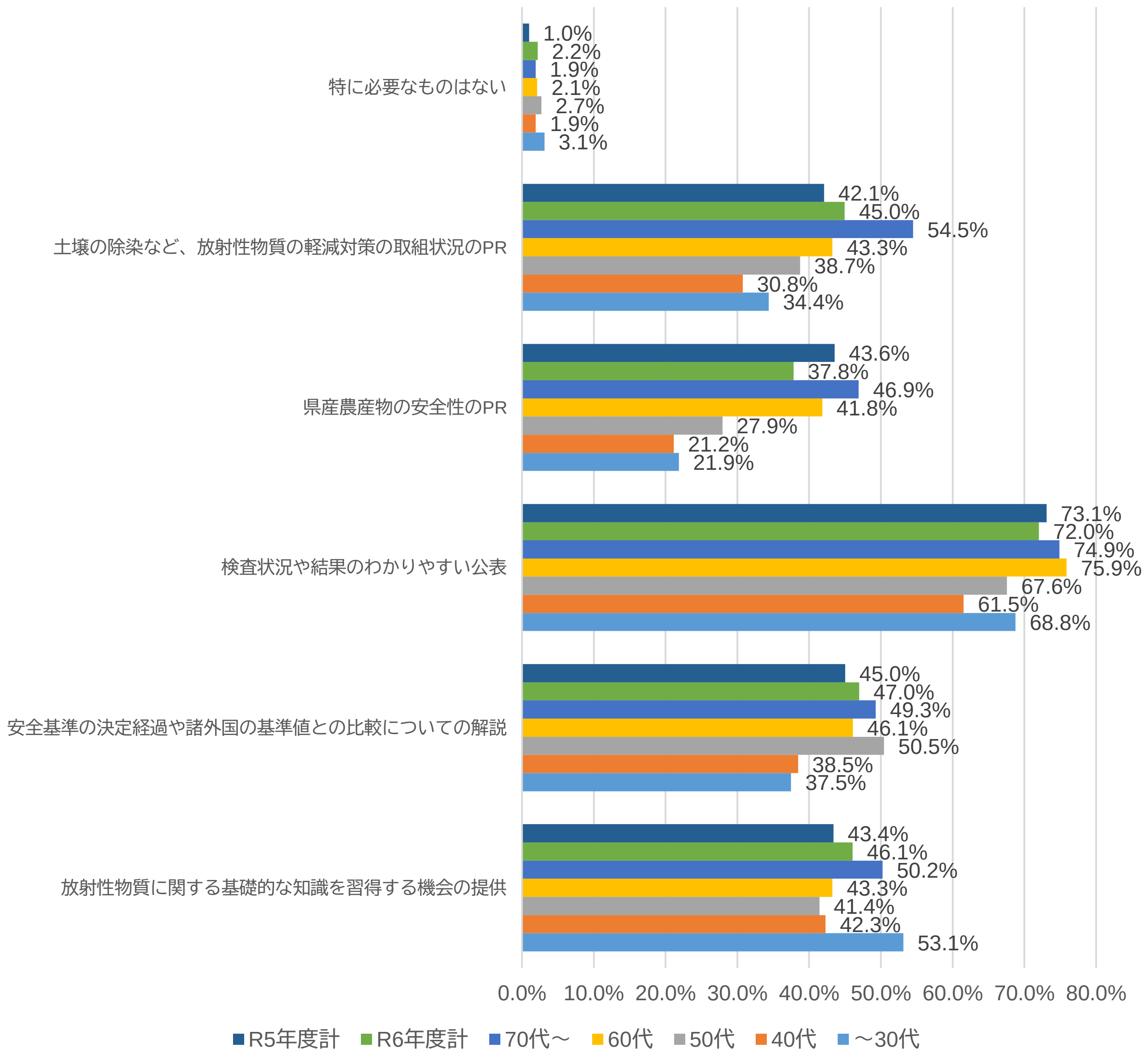
主な理由
・毎日食べるものだから
・土壌汚染の状態がわからないから
・大気および雨、水への影響がわからないから
・生体内濃縮されるものだから
・ALPS 処理水の海洋への影響がわからないから
・野生、天然のものはコントロールできないから
・検査体制が不安だから
・TV などで報道されているから
・過去に基準値越えが出た記憶が残っているから
・自家採取品は管理下に置かれていないから
・飼料への残留がわからないから
・人体への影響がわからないから
・出荷の自粛が続いているから
・基準値がわからないから
・情報が少ないから

【分析】
・全体的に野生のものや大気・海水など管理下に置かれていないものへの不安が見受けられる。
・日々の食事として口にする機会が多い食品に対して、不安が見受けられる。

| 問20 | 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。<br>複数回答　回答数：1,396 |
|---|---|

選択項目
1：放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
2：安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
3：検査状況や結果のわかりやすい公表　　4：県産農産物の安全性の PR
5：土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況の PR　　6：特に必要なものはない　　7：その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」（72.0%）が最も多く、次いで「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」（47.0%）、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」（46.1%）、「土壌の除染など、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」（45.0%）の順である。（年代別有意差なし）




【分析】
・傾向はR5年度と同様である。特に安全性に関する情報や知識を得る機会の増加が求められている。

| 問21 | 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策、消費者モニター活動などで日頃感じていることなど、ご意見があればご自由にお書きください。<br>自由回答　回答数：152 |
|---|---|

計152件の記述回答があり、その内容としては、「モニター活動」、「食品表示」、「健康意識」、「環境」、「食品添加物」、「放射性物質」、「農薬」、に関する内容が多かった。
特に、「ALPS処理水」に関する内容について、昨年度は20件以上であったが、今年度は10件弱と大幅に減少した。
　食の安全安心全般については、食品表示、添加物、輸入食品といった内容が散見され、例年と同様の傾向が伺える。（個別の内容は省略）

アンケートにご協力いただきありがとうございました。